

# ガソリンは どうやってできるの？



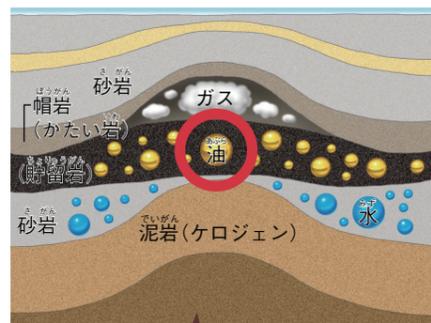
石油連盟

<http://www.paj.gr.jp/>

車を動かすのに必要なガソリンは、石油からつくられます。では、石油はどこでどのようにでき、石油からどのようにガソリンがつけられるのでしょうか。石油に関するさまざまな仕事を行っている石油連盟に教えてもらいました。

**A** ガソリンは、大昔の生物の死がいからできた石油(原油)を「蒸留」してつくる！

石油のもと、今からおよそ2億5000万年から6500万年前のプランクトンなどの生物の死がいとされています。生物の死がい長い時間をかけて変化して液体の石油になり、世界各地の海底や地下にたまっているのです。



石油が生物の死がいからできているなんてびっくり！

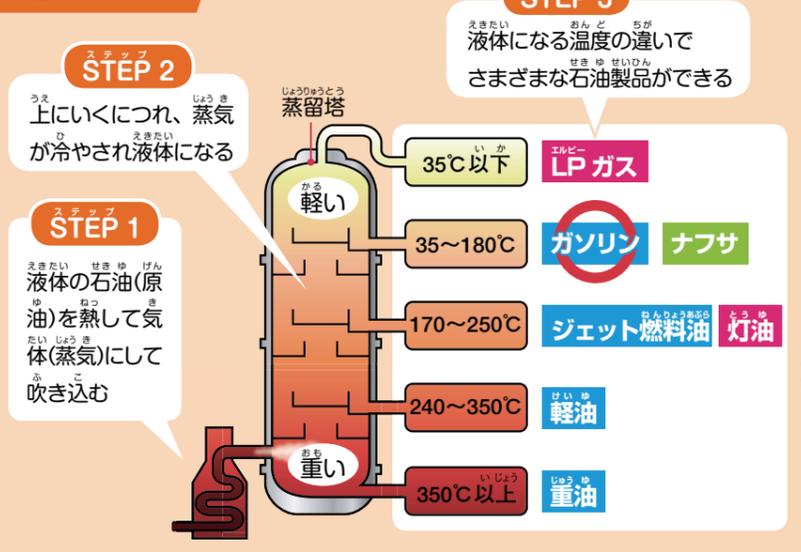
石油のもと、大昔の生物の死がい！

生物の死がい地下深くの熱や圧力や微生物の力で石油に変化！

海底や地下からとれた石油を「原油」といいます。ただし、原油はそのままでは自動車の燃料として使えません。原油を加熱して液体から気体にし、冷やして再び液体にする「蒸留」という工程を経て、ガソリンをはじめとするさまざまな石油製品ができるのです。

ガソリン以外にもいろいろな石油製品があるのね。

## 蒸留のしくみ



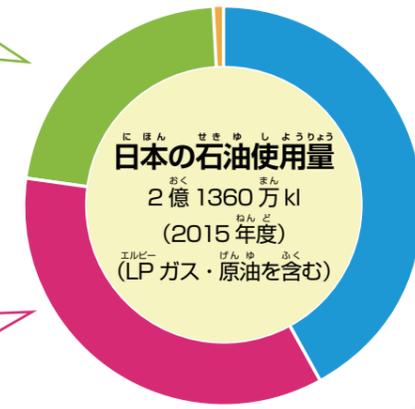
# 石油は「三つの働き」で私たちの生活を支えている！

原料 24.2%

**ナフサ**  
ペットボトルやプラスチック製品、ゴム製品など、いろいろなものの原料になります。

石油には、ガソリンのように「動かす力」、灯油のように「あたためる力」、ペットボトルなどの「原料」になるという三つの働きがあり、さまざまな形で私たちの生活を支えています。

ペットボトルも石油からできているケモ。



あたためる力 29.9%

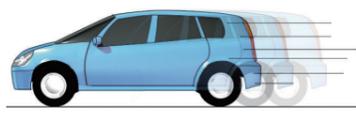
燃やした時に発生する熱で、体を温めたり、料理などに使ったりできます。

**灯油**  
**LPガス**  
**重油**

動かす力 45.2%

勢いよく燃やすと、乗り物を動かしたり、発電所のタービンを回したりする力になります。

- ガソリン
- ジェット燃料油
- 軽油
- 重油



## 食事と石油とのかかわり

私たちは、石油を食べるわけではありません。しかし、野菜をつくったり、運んだり、私たちの家庭の食卓に並ぶまでに、石油の力が深く関係しています。

つくる

農機具(軽油)

動かす力

ハウス栽培(重油・灯油)

運ぶ

トラック(軽油)

売る

ビニール袋(ナフサ)

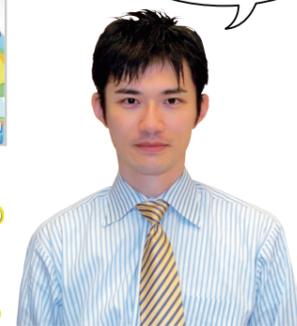
## 石油連盟ってどんな仕事をしているの？

答えてくれた人 石油連盟 広報室 植松大志さん

石油連盟の仕事は、石油会社の人たちの意見を取りまとめたり、石油に関するさまざまな調査・研究をしたり、いろいろな人に石油の大切さや役割を知ってもらうための活動などです。「アブラハムくんのオイルワールド」という子ども向けサイトの制作も仕事の一つで、石油について調べたり、ゲームで遊んだりしながら、石油のことを楽しく学べます。また、毎年、小学4~6年生対象の石油の作文コンクールを実施しています。作文を書く参考になるように、小学生向けの学習パンフレットなども用意しています。



作文コンクール、ぜひ、応募してみてくださいね。



<http://www.paj.gr.jp/life/kids/>